





# 理事長諮問による二つのプロジェクト委員会

## 一次の世代の教育同盟を見すえて—

去る3月5日(木)に一般社団法人キリスト教学校教育同盟の臨時総会が開催され、佐藤東洋士理事長より、プロジェクト委員会設置の提案と諮問がなされました。

一つは、「教育同盟の新たな連携」に関するプロジェクト委員会、もう一つは、「道徳の教科化」に関するプロジェクト委員会です。

「教育同盟の新たな連携」に関するプロジェクト委員会は、立教学院副院長・大学文学部長・教育同盟常任理事の西原廉太先生によって、本紙の一面にその趣旨が記されていますが、このプロジェクト委員会発足のきっかけは、昨年の第56回学校代表者協議会(主題「キリスト教主義学校におけるキリスト教教育の存続の危機について」)における、先生の発題(キリスト教学校の連帶の新たな可能性について)から生まれることとなりました。

「道徳の教科化」に関するプロジェクト委員会は、同協議会における北陸学院大学学長の町田健一先生の発題(「道徳の教科化」に教育同盟はどうのに対応するのか)に応える形でプロジェクト委員会が発足しました。

それぞれの課題は、これまで様々な機会に問われ、語られてきながら具体的な動きとならず、先送りされてきたものばかりです。

なぜ、問題が指摘されながら、その先の具体化に至らなかったのかは、キリスト教学校教育同盟のあり方によるのではないかと感じます。言うなれば、課題を話し合う機会・研修の場は設けられていますが、その問題を継続して実行する組織を生み出さなかつたということでしょう。

1910年の教育同盟の結成とは、キリスト教学校としての存在が問われる危機に際して、一キリスト教学校としての対応でなく、キリスト教学校が一つとなって、その難局に当たることを決意したことの結果と聞いています。

それからの歴史の中、教育同盟は幾度か社会においてその立場を問われることがありましたが、今日に至っています。

その間、教育同盟の場合は、教員・職員が建学の精神を考える研修の機会、また地方における教育活動の困難に耳を傾ける機会、そして教員・職員各々の厚誼の機会であったと語られます。

5年前に、教育同盟は結成100年を迎えました。時代の様も大きく違ってきました。運命共同体としての共通の試練よりもむしろ、大都会と地方という地域の格差や、学校の格差としてその存在が問われることの方がより深刻となっています。

100年を記念して発行された教育同盟編纂(編纂委員長・大西晴樹明治学院大学教授)『キリスト教学校教育同盟百年史』終章の「教育同盟、未来に向けての五つの提言」の中に教育同盟のこれからとの課題が書かれています。

この五つの提言に応えるべく動き出したのが昨今の教育同盟です。

### 「1. キリスト教学校教育の理念の明確化と一致」

これまでの教育同盟では教育の理念(建学の精神)に重点が置かれて研修が繰り返されてきたように感じます。これからはキリスト教教育とは何かを、誰にも分かるように表現できなければ、キリスト教教育はキリスト教学校の中で浮き上がった存在となっていく危惧を感じます。このことを考えて、研修会に出席する方の関心を明確にし、その出席者に添った研修会の開催を始めました。一昨年に、すべての研修会の再吟味(「研修会再編成プロジェクト委員会」)を行い、幾つかの統廃合を行ったのは、その流れからです。

### 「2. エキュメニズムによる発展」

日本カトリック学校連合会との連携が、十数年前から「キリスト教学校教育懇談会」の名のもとに、キリスト教学校教育を考える会として毎年開催されています。2年ごとに連合会と教育同盟とが運営を交替しながら続けています。双方の頂上会議の下に、中学校・高等学校の校長レベルでの現場を見えた実行委員会を組織して、ここ2年、教育同盟が運営当番となり行っています。実際の現場での交流の機会を増やすことを先ず心がけていきたいと考えています。互いの研修の機会に双方の参加をさらに促していくことも今後の課題となります。

### 「3. キリスト教による人間教育の推進」

この課題の一つとして、道徳教育の教科化の大変な問題を受けて、今回プロジェクト委員会が設置され、教育同盟がこの問題の受け皿として動き出しました。

### 「4. キリスト教学校教育の担い手の育成」

「教職員後継者養成部会」として、地区(東北・北海道地区、関東地区、関西地区、西南地区)の特性を生かしながら組織的に活動できるまでになり、着実に後継者を育てつつあります。

成果の一報告として本紙の6月号に「新たに教員となって」と題した座談会の記事が掲載されます。

### 「5. 組織改革の必要性 総会改革を例に」

この6月の第103回総会において、本組織が一つの完成体となります。

任意団体であったキリスト教学校教育同盟が一般社団法人キリスト教学校教育同盟となり、加盟学校法人の責任が明確になり、その使命の達成を具体的に推し進める組織に変わりつつあります。教育同盟と表裏一体となっていた教育同盟維持財団を一般財団法人とし、さらに長年の願いであった統合をこの第103回総会において承認されることとなっています。

この閉塞した現代の社会にあって、教育同盟の新たな連携が、キリスト教学校としての新しい歩みを示すことになると考えて今回の改革です。

以下それぞれのプロジェクトの内容を示します。

(事務局主事)

### 諮問1 「教育同盟の新しい連携」に関するプロジェクト委員会

2015年3月5日  
一般社団法人キリスト教学校教育同盟  
理事長 佐藤 東洋士

教育同盟の新しい連携を検討するプロジェクト委員会を設置し、下記の内容について諮問する。

記

1. 委員会 一般社団法人キリスト教学校教育同盟  
「教育同盟の新しい連携」に関するプロジェクト委員会

2. 期間 2015年3月(臨時総会・諮問)～  
中間報告: 2015年度定時総会・学校代表者協議会  
～2016年6月(定時総会・最終答申)

3. 諮問項目 (1)ミッションステートメント推進を図る事務局長・事務長連絡会議の構築  
(2)教育者を支援する地域システムの構築  
(3)キリスト教大学による教員免許更新講座の構築  
(4)看護教育推進連絡会議の構築  
(5)災害相互支援連絡会議の構築

4. 実行委員会 委員長 西原 廉太(立教学院)  
担当委員 (1)～(5)  
事務局 磯貝 駿成(教育同盟)

5. 諒問内容 (1)ミッションステートメント推進を図る事務局長・事務長連絡会議の構築

勤務する学校が大切にするミッションステートメントを学ぶ研修会等は設けられているが、近年、中小規模校ではその機会を設けることがまだ難しい状況になってきている。実務研修とは違い、事務職員がその機会を自ら選択し学ぼうとすることは特に難しい状況にあると言える。事務職員の資質(帰属意識と学校理解)向上を図るのは、その統括責任者である事務局長等にある。どのように組織的に研修の機会を推し進めなければならないかを協議する機会を設け、その実践を提言する事務局長・事務長連絡会議の構築をめざす。

担当委員 高良 研一(西南学院)、古屋 四朗(九州ルーテル学院)、未定(関西地区)、未定(関東地区)

#### (2) 教育者を支援する地域システムの構築

近年の学校教育現場では、教師の心因性の疲れから教育活動そのものが帶びることもある。教科指導・生徒指導・進路指導・学級指導・課外指導は言うに及ばず、保護者対応・同僚との人間関係からの悩みを一人で背負い込む状況がその絆びを大きくしている。心身の不安定さを起こした教員へのケアは個々の学校においてなされているが、代替教員のことも含めて一学校では十分にカバーしきれない面も起こっている。この問題を教育同盟に加算する地域の学校が共通する問題として取り組むことはできないだろうか。これまでとは違った対応システム、ネットワークを模索する。

担当委員 長谷川洋一(大阪女学院)、川俣 茂(清教学園)

#### (3) キリスト教大学による教員免許更新講座の構築

道徳の教科化の流れをも踏まながら、教員免許更新講座の設置をキリスト教大学の連携のもとに実施できないかを検討する。eラーニング、集中夏期講座の開設等を教育同盟を場として行えないかをも含めて検討する。

担当委員 伊藤 健悟(青山学院)、志村 望(桜美林学園)、小谷 正登(関西学院)、細谷 早里(関東学院)、小澤 伸男(横浜共立学園)

#### (4) 看護教育推進連絡会議の構築

多くの看護学校における看護教育とキリスト教学校における看護教育とに違いはあるのか。あるとしたならそれは何か。看護学校に教員として勤務する者から、その「何か」を学び、学生に伝えたいといいう願いが生まれている。それをキリスト教教育という言葉だけで説明し終えるのではなく、看護師になっていく上で具体的に何を身に着けて行くべきなのかを、クリスチャンであるなしを問わず、看護教育指導者として考えていく看護教育推進連絡会議の開催を企画する。

担当委員 岡山 摩子(同志社女子大学)、山崎不二子(福岡女学院)、前田三枝子(福岡女学院)

#### (5) 災害相互支援連絡会議の構築

阪神大震災、東日本大震災を経験し、将来想定されている首都圏直下大地震・南海トラフ大地震と、それ

(2面につづく)

